

令和 5 年 4 月 26 日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K19022

研究課題名（和文）新人看護師が認識するチームの心理的安全性が看護実践能力に与える影響

研究課題名（英文）The effect of psychological safety perception to the team on nursing competency in newly graduated nurses.

研究代表者

浅海 菜月（Asami, Natsuki）

山口大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：00761032

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は日本語版チームに対する心理的安全性尺度看護師用（Japanese version of Team Psychological Safety for Nurses: JPSN）を作成し、信頼性、妥当性の検討をした上で、基本属性との関連を明らかにした。Edmondson(1999)のTeam psychological safety scaleを翻訳し、病棟看護師チームに所属する看護師を対象に調査を行い、JPSNが日本の看護師に使用できることを確認した。また、年齢、性別、経験年数、病棟の診療科のどの変数においても、チームに対する心理的安全性認識との関連が認められなかったことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

チームに対する心理的安全性は、チームとなり互いに協力し合いながらケアを提供することが求められる病棟看護師にとって、効果的な相互作用を促す重要な要因である。本研究は、日本語版チームに対する心理的安全性尺度看護師用（Japanese version of Team Psychological Safety for Nurses: JPSN）を作成することにより、日本の看護分野において、チームに対する心理的安全性に関する研究の発展に貢献した。また、日本の看護師を対象にチームに対する心理的安全性認識とその関連因子を初めて検討し、日本の看護分野において、チームに対する心理的安全性という概念の定着に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This study developed the Japanese version of the Team Psychological Safety for Nurses (JPSN) scale, examined its reliability and validity, and clarified its relationship to basic attributes. The JPSN was translated from Edmondson's (1999) Team psychological safety scale, and a survey was conducted on nurses who belonged to a ward nursing team. I also found that none of the variables of age, gender, years of experience, or department of the hospital ward were found to be associated with psychological safety perceptions of the team.

研究分野：基礎看護学

キーワード：チームに対する心理的安全性 病棟看護師チーム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

質の高い医療を実現するためには、各医療従事者が互いに連携することで、患者の状況に的確に対応した医療を提供することが重要とされる。とりわけ、病棟における看護師業務は、患者に24時間継続した医療を提供するという性質上、看護師はチームとなり互いに協力し合いながらケアを提供することが求められている。具体的には、メンバー間でコミュニケーションを取り合い業務の調整をすることや、互いの知識を共有して活用することといったメンバー間の協調的な行動が期待されている。

このような効果的な相互作用を促す要因の一つに、Edmondson¹⁾が提唱したチームにおける心理的安全という概念がある。先行研究によると、チームにおける心理的安全は個人レベルとチームレベルの2つのレベルから捉えられる²⁾。個々の看護師を対象にした韓国の先行研究では、看護師の心理的安全認識が、患者の安全に対して考えや懸念を述べることや、失敗について報告することを促すことがわかっている³⁾。また、アメリカの研究では、看護師のチームに対する心理的安全認識が、問題解決につながる意見の提案を可能にし、結果として業務改善につながることをわかっている⁴⁾。一方、集団レベルで捉えた心理的安全の概念とは、チームそのものがもつ心理的安全のレベルを指す。ベルギーの先行研究では、心理的安全が高い看護師チームは、インシデントについてメンバー間で率直に話し合う機会が多いことがわかっている⁵⁾。どちらにおいても、チームに対する心理的安全は、メンバーが率直なコミュニケーションや、懸念の表明、フィードバックを求める行動に安心して取り組めることが示されてきた。

看護師のチームに対する心理的安全に関する研究を概観すると、諸外国においては一定の知見が蓄積されているが、日本の看護師を対象にした研究は見当たらなかった。そのため、チームに対する心理的安全に焦点を当てた具体的な研究に着手する前に、わが国の病棟看護師チームに所属する看護師を対象に、当該尺度の信頼性・妥当性を検討し、関連因子を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本語版チームに対する心理的安全尺度看護師用(Japanese version of Team Psychological Safety for Nurses: JPSN)の作成と、信頼性、妥当性の検討を行うこと、さらに、病棟看護師のチームに対する心理的安全認識と性別、年齢、経験年数、病棟の診療科といった基本属性との関連について明らかにすることである。

3. 研究の方法

(1) 調査対象者

調査対象者は、全国の看護師チームに所属する看護師とした。除外基準は、看護師チームに所属していない看護師、看護師長とした。看護師長は、看護実践の組織化・運営などの役割を担うため、チームの看護師と同様の業務に当たるきっかけが少ないといえる。チームの看護師の回答と同等に扱うのは困難と判断し、調査対象者から除外した。

(2) データ収集方法

調査は、インターネットによるアンケート調査法を用いて2020年12月に実施した。

(3) 調査内容

基本属性

性別、年齢、所属病棟、看護師としての経験年数、現在の病棟での経験年数とした。

JPSN 暫定版

JPSN 暫定版の作成にあたっては、Edmondson¹⁾が作成した Team psychological safety scale の翻訳を行った。JPSN 暫定版の作成にあたっては、メールにて原著者から日本語へ翻訳し、看護師に対して使用することについて許諾を得た。回答形式は、「まったく当てはまらない(1)」～「非常に当てはまる(7)」の7件法であり、項目の合計得点が高いほどチームに対する心理的安全認識が高いことを示している。

ワーク・エンゲイジメント

JPSN 暫定版の妥当性を吟味するため、日本語版ユトレヒトワークエンゲイジメント尺度(Japanese version of the Utrecht Work Engagement Scale: UWES-J)との相関を確認した。ワーク・エンゲイジメントとは仕事に対する肯定的で充実した心理状態を指す概念であり、チームを心理的に安全と認識している看護師は、仕事に対してエネルギーや活力を投じると想定される。回答形式は「そのように感じたことは一度もない(0)」～「いつも感じる(6)」の7件法であり、点数が高いほど、ワーク・エンゲイジメントが高いことを意味する。

(4) 倫理的配慮

本研究は山口大学大学院医学系研究科保健学専攻医学系研究倫理審査委員会の承認(承認番号612-1, 706-1)を得て実施した。

(5) 分析方法

JPSNの質問項目ごとに天井・床効果, 尖度・歪度, 項目 - 尺度得点相関分析 (Item-Total 相関分析)の確認を行い, 項目を削除するか否かを判断した。次に, JPSNの因子構造を確認するため, 探索的因子分析を行った。所属因子への因子負荷量は.4以上を基準に確認した。その後, 因子構造の妥当性を検討するため, 確認的因子分析を行った。

最後に, JPSNの基準関連妥当性を検討するため, JPSNとUWES-Jの各因子との相関を確認した。尺度項目の信頼性の検証では, 信頼性係数と尺度全体のCronbach係数を算出した。

続いて, JPSNと基本属性との関連を分析した。性別においては, 男性群, 女性群におけるJPSN得点の平均値の差をt検定で分析した。年齢, 看護師としての経験年数, 現在の病棟での経験年数, 病棟の診療科においては, それぞれ群分けを行い, 一元配置分散分析を行った。

4. 研究成果

(1) 調査対象者

調査対象者は23~60歳の看護師515名で, 女性が427人で82.9%であり, 男性は88人で17.1%であった。JPSN得点は7~49点で, 平均点は 31.7 ± 6.9 点であった。

(2) JPSN 暫定版探索的因子分析・確認的因子分析

探索的因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行った。固有値1を基準に因子を抽出したところ, 1因子構造であることがわかった。1因子で全分散の35.3%を説明していた。

次に, 確認的因子分析を行った。分析を実施するにあたっては, 探索的因子分析でみられた1因子モデルと観測データとの適合度を吟味した。修正指数を確認しながら2組の誤差変数間に共分散を加え, モデルを作成した。適合度は $GFI = .982$, $AGFI = .958$, $CFI = .976$, $RMSEA = .059$, $2/df = 2.759$ であり, すべて許容範囲内であった。以上のことから, モデルの適合度は良好と判断し, 1因子7項目をJPSNとした。

(3) JPSNの信頼性・妥当性の検討

尺度全体のCronbach係数は.787であった。JPSN合計得点とUWES-J合計得点間で $r = .313$ ($p < .001$), JPSN合計得点とUWES-Jの下位尺度である「活力」, 「熱意」, 「没頭」との相関係数は, $.195 \sim .363$ ($p < .001$)であり, $p < .001$ 水準で有意な正の相関がみられた。

以上の結果により, 尺度の信頼性と妥当性が示され, JPSNは日本の看護師に使用可能であることが確認された。それにより, 日本の看護分野において, チームに対する心理的安全に焦点を当てた研究の発展が期待される。

(4) チームに対する心理的安全と基本属性との関連

男性 32.2 ± 5.9 点, 女性 31.6 ± 7.1 点であり, 性別による有意差はみられなかった($p = .529$)。年齢に関しては, 世代ごとの得点に有意な差はみられなかった($F(3, 511) = 2.083$, $p = .101$)。看護師としての経験年数・現在の病棟での経験年数どちらにおいても, JPSN得点に有意な差は認められなかった($p > .05$)。また, 病棟の診療科ごとのJPSN得点を比較した結果, JPSN得点にも有意な差はみられなかった($F(7, 507) = 1.275$, $p = .261$)。

チームに対する心理的安全についての先行研究は主に欧米で行われてきた。本研究は, 日本の看護師を対象にチームに対する心理的安全認識とその関連因子を初めて検討した研究であり, 今後, 看護実践能力との関連を明らかにするために, 更なる研究を行う予定である。

引用文献

- 1) Edmondson, A.C. (1999). Psychological safety and learning behavior in work teams. *Administrative Science Quarterly*, 44(2), 350-383.
- 2) Edmondson, A.C., Lei, Z. (2014). Psychological safety: The history, renaissance, and future of an interpersonal construct. *Annual Review of Organizational Psychology and Organizational Behavior*, 1(1), 23-43.
- 3) Lee, S.E., Dahinten, V.S. (2021). Psychological Safety as a Mediator of the Relationship Between Inclusive Leadership and Nurse Voice Behaviors and Error Reporting. *Journal of Nursing scholarship*, 53(6), 737-745.
- 4) Tucker, A.L., Edmondson, A.C. (2002). Managing routine exceptions: A model of nurse problem solving behavior. *Advances in Health Care Management*, 3, 87-113.
- 5) Leroy, H., Dierynck, B., Anseel, F., Simons, T., Halbesleben, J.R., McCaughey, D., Savage, G.T., Sels, L. (2012). Behavioral Integrity for safety, Priority of Safety, Psychological safety, and Patient safety: A Team Level Study. *Journal of Applied Psychology*, 97(6), 1273-1281.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 浅海菜月, 安達圭一郎, 大神綾夏	4. 巻 45-5
2. 論文標題 日本語版チームに対する心理的安全尺度看護師用 (Japanese version of Team Psychological Safety for Nurses : JPSN) の作成と信頼性・妥当性の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 897-903
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15065/jjsnr.20220126178	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------